

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100863		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム坂本		
所在地	大津市下阪本6丁目19-1		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者の重度化が進むなか、最期の時まで笑顔で安心してグループホームで暮らしていただけるよう御利用者御家族の思いを大切にケアを提供している。
今の暮らしを継続していただけるよう、健康管理に気をつけ主治医と情報を共有し連携を強化している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570100863&SCD=320&PCD=25
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

洛和会が運営する当該事業所は、その人らしくを第一に考えた独自の理念を作り、思いや意向を把握する為に寄り添う中で観察を行い、その人の立場になって考える事を大切にされています。重度化が進み身体機能の低下は否めず、ホームが2階に位置する事もあり外出の機会は減っていますが、慣れ親しんだ環境の中で今までの生活が継続出来るように、作品作りや家事等で一人ひとりの出来る事や出来そうな事を見つけて意識的に活躍できる場面を作っています。職員は、高い要介護度に対応する事で、ケアのスキルアップができる機会と前向きに捉え、ターミナル期への対応にも取り組んでいます。今後は、食事や排泄、入浴等の生活には欠かせない基本的なケアの部分に更に目を向け、職員側が決めずその人の立場になってケアする事を重要課題として取り組みたいと考えています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年1月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームがどこを目指し進んでいくのか職員全員で新たに理念を構築しました。「その人らしくを大切に笑顔でやさしく寄り添うケアを目指します。」	寄り添うケアの提供を大切にして、地域の中で今までの生活や習慣を継続しながら、その人らしく過ごして頂きたいとの願いを込めたホーム独自の理念を作っています。会議の中で話し合ったり振り返りながら理念に添ったケアが出来ているかを確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や買い物時に積極的に挨拶を交わし、交流を深めています。利用者の重症化の中ボランティアの来訪を盛んに行い、地域交流をしています。	自治会に参加し、回覧板で地域の行事や情報を把握し、地蔵盆等の行事の際は職員が手伝いに行っています。ボランティアの来訪もあり、歌や紙芝居等を披露してもらっています。また訪問美容は地域の美容室に頼んでいます。今後は幼稚園児との交流も図りたいと考えて働きかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターを地域の人向けに2月に開催する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、自治会連合会長、自治会長、地域代表、社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。ホームの状況や行事報告が行われ、活発な意見交換の場となっています。会議で出た意見や要望等をサービスの向上に活かしています	運営推進会議は、家族、自治会長、民生委員、社協会長、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に一度開催しています。ホームからは行事や入居者の様子、職員の異動状況等の報告を行い、参加者からは意見やアドバイスをもらい、地域の情報も得られる機会となっています。	議事録の記載については、話し合いの過程が分かり次回の会議でも活かせるように、参加者からの意見や要望に対して、ホームからの回答等も記録に残されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、地域包括支援センターの職員と実情を報告し、相談しています。	法人には行政担当者が配置されており、一括で行政との連携を図っています。ホームとしては年4回開催される行政主導の認知症の勉強会に参加し、今後は大津市の認知症相談窓口を受託する為に市に申請を行う予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受けてきた職員が伝達研修を行い御利用者の思いを大切にしている。	身体拘束についての研修を受講しています。日中は施錠はしておらず、死角になる階段部分にはセンサーを設置して利用者の行動を把握し安全を確保しながら自由な暮らしを支援しています。会議の中で行動制限や言葉の抑制についても、事例を用いて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けてきた職員が他職員に伝達研修を行い、虐待がない様お互いに声掛けをしながら防止している。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けてきた職員が他職員に伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又解除時は十分な説明を行い、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は寄り添いケアの時間を増やし本人の思いを聞き出しています。家族は意見がしやすい雰囲気をつくり、面会時や運営推進会議の時に意見や希望を出してもらい、出された意見や希望に対しては会議等で検討し、直接家族へ連絡するようにしています。	家族の訪問時には直接要望を聞き、速やかに対応できるようにしています。伺った要望や意見は職員間で対応策を話し合う等期限を決めて返答するようにしています。ホームの判断では返答できない事柄は法人と相談して対応しています。家族との電話連絡は頻繁に行い、話し合いの機会を多く作っています。年に2回は家族アンケートを実施し、結果を受け改善策を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティングを行い、活発な意見交換をしています。	毎日の申し送り時や会議等では意見や気付きを出し合い、様々な角度からの意見交換をしています。ホームとしては、まず実践することを第一に考え、その結果に基づき代替案を考えて再度実行する事としています。次回の会議の議題を提案して個々が考える時間を取る事で更に貴重な意見が得られる事もあります。年に2回管理者との個別面談を行い、意見を出す機会があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自己評価」「力量調査」を年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「キャリアパス」「力量調査」を行い、力量に合った研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加、外部の研修にも参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾け、不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	蜜に連絡をとり、面会時には家族の話に耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度も本人・家族と話し合い、本当に必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ない事を見極め、本人のやる気を引き出す支援を行いながら、暮らしを共にする者同志の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加を呼びかけ、些細な事でも家族に報告しながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度化に伴いこちらから出向く事が出来ない為、ホームへ来訪してもらい、関係が途切れないよう努めています。	以前の稽古事の弟子や近所に住んでいた夫婦、信仰していた宗教関係の方等馴染みの方々の訪問があり、その人らしい生活の支援に繋がっています。ホームでは、馴染みの美容室やスーパー、レストラン等個別で行きたい場所への外出支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が上手く関係作りが出来るよう職員がクッションになる事で、利用者同志の良い関係作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、サービス終了した利用者に対して、お見舞いに行ったり、電話にて様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、アセスメントを行い、本人の思いに沿ったケアを提供している。	重度化が進む中で思いの把握が困難な方が多く、ゆったりと一緒に過ごす中で行動や表情を観察し、その人の立場になって考えています。職員全員でセンター方式のアセスメントに取り組み、家族からの情報も加味しながらまとめ、思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ家族、本人から今までの生活歴などを聞き取り、センター方式に落とし込み、情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や口頭による申し送りを密にし、一人一人の現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思いを聞いた上で、カンファレンスを行い、計画作成を行っている。	職員全員でアセスメントを行い、本人や家族の意向を採り入れ、医師の意見も反映させた介護計画を立てています。2ヶ月に一度カンファレンスで評価、モニタリングを行い、6ヶ月に一度の更新に繋げています。職員は計画と提供しているケアが現状に合っているかを確認しながら日々の記録に残しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノートを活用し、職員間の情報共有を行い、カンファレンスに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と相談しながら、柔軟に対応している。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人と顔見知りになる事で、本人が安全に散歩や買い物をしながら豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族、主治医と蜜に連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援しています。	ホームの一階が病院という事もあり、状態の変化や緊急時の対応等、医療連携体制が整っています。通常は月2回の往診や必要時の歯科往診があります。往診時の内容をわかりやすく伝えて欲しいとの家族アンケートでの要望により、往診結果報告書の作成を始めたところであり、家族に送付すると共に、他医療機関との連携にも役立っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪看時、情報を提供し、必要に応じ受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携を通して、病院関係者と情報を交換し、お見舞いなどに行き、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医と蜜に連携をとり、何度も話し合いを重ねて本人、家族の気持ちを大切にしながら、方針を決めています。職員も終末期の対応について、勉強会や意見交換を行い、質の高いケアを提供しています。	ホームとしてはターミナルケアを積極的に行っていきたいと考えています。ホームでの最期を希望された利用者に対して、提携医との密な連携と家族の協力、職員間では随時の申し送りでの状態の把握、ケアの統一や細やかな対応で取り組んでいます。その結果食事が出来るまで回復された方がおり、今後のケアに繋がる自信となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の対応や応急手当について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回様々な災害を想定した訓練を実施しています。運営推進会議で災害訓練の参加を呼びかけている。	年2回、消防署との協力で避難訓練を行っています。ホーム独自でも2ヶ月に一度、夜間等場面を想定して訓練を行っています。自ら火災を起こさないように毎日の掃除でほこり等を除去しています。消火器の使用方法や、スプリンクラーの使い方等の練習も行っています。法人には防災担当者が配置されており、注意事項等の指導を受けています。	ホームの立地場所、夜間は職員が一人体制である事等を踏まえると、地域からの協力は不可欠な状況です。地域との連携が深められるような働きかけが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を重ね質の向上を図っています。情報を共有し利用者が混乱しない様個人個人に合わせた声かけの統一をしています。	新人採用時や現任研修等、法人でのプライバシー研修を受講しています。親しみと慣れは違うことや利用者への態度等、職員全員で理解を深めたい事柄であり、個人のプライバシーを大切にすることを常に話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択が出来るような声掛けを行い、本人の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談しながら、その日の服を決めたり、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に合わせて食事の準備・片付けを職員と共に行っている。	利用者の希望や好みを聞きながら、配達される食材を見て献立を考えています。出来る方と一緒に調理や配膳を行っています。時には仕出し弁当を頼んだり、個別での外食支援も行っています。基本的には食べたい物を食べてもらいたいと考えており、選択する場面を意識的に作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを活用し、必要に応じて、水分量のチェックを行ったり、捕食を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェックシートを活用し、本人の能力を活かした口腔ケアをしている。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し個々に合わせた排泄パターンを確立してトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。	現在は排泄のパターンを把握して、個々の時間に合わせて誘導していますが、尿意がある時に誘導を行いたいと考えています。トイレの場所がわからないのか、排泄の動作に問題があるのか等、今後は原因をアセスメントして問題の解決を図りたいと考えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただけるよう、好みの飲食物を提供している。毎朝ラジオ体操をして、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人の希望により、入浴を行っています。	週に2回を目処に日中16時ぐらいまでに入浴してもらっています。希望があれば午前中の対応も可能です。重度の方にも対応できるようにシャワーチェアも整備しています。拒否のある方には時間や日を変えて対応し、入らない日が続けば足浴も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も適宜休憩をしながら過してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明を職員全員が読み、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、唄おう会、外出、散歩など利用者の趣味や楽しみ、気晴らしなど張り合いや喜びのある日々を過せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームが2階にあり、エレベーターがない為、車椅子の利用者の外出は困難になっているが、午後より散歩の時間を作る事により、個別外出を行っています。	重度化に伴い、外出の機会が減っているのが現状ですが、利用者と一緒に回覧板を持って行ったり、気候の良い時は近隣のコンビニや薬局等に散歩がてら出かけています。年1回は個別外出として利用者の希望する場所へ行っています。	

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時の支払いや、小銭などは本人で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より依頼があった際は、適宜電話などで連絡をとってもらえる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者と共に掃除を行い、清潔に保つ事や季節の花や季語を使った書道を廊下に貼ったりして居心地よく過ごせる工夫をしています。	共有空間には季節の飾り付けが施され、テレビの音量空調も生活の場面毎に変化を付けて心地よく過ごせるように配慮しています。多少の段差はありますが、移動時の安全には十分に配慮しています。廊下には絵画が飾られベンチや椅子を効果的に配置して、気に入った場所で過ごしてもらえるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は各自居室や多目的室など自由に行き来できる環境にあり、利用者同士も居室やリビング・多目的室など思い思いの場所で交流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人が長年使用した馴染みの物を置くことにより本人が居心地よく過ごせる工夫をしています。	居室には入り口にのれんが掛けられ、表札も個々の物を用意して個性を出しています。各居室毎に温湿度計が設置され、冬場はバスタオルを水に濡らして設置する事で乾燥防止に努めています。毎朝の掃除を日課にする方には、ほうきと雑巾も用意しています。大切な物、趣味の物を持ち込んだり、生活スタイルに応じて安心して過ごしてもらえるような配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が明確にわかるように表示している。		